

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	鳥栖市立田代中学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の全国学力・学習状況調査において、学力の向上を見ることができており、今後も授業改善を継続したい。また、タブレット端末においては、校内研修等の成果として、大きく活用率が上がっている。今年度はより効率的な活用のあり方を全教科全領域で探りたい。 ・本校は、500人を超える自転車通学生がおり、自転車運転のマナーの向上が継続した課題である。昨年度は幸い大きな事故はなかったものの、自動車、自転車同士の接触事故や転倒などの自損事故が20件程度発生した。本年度も交通安全教室を2度実施するなど交通安全意識の向上に努めたい。さらに全職員による継続した指導を行うとともに、PTAや地域と連携して一層の安全教育の推進を図ってきたい。 ・不登校や不登校傾向の生徒など学校不応の生徒が増えてきており、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関とのより一層の連携を図ることが今年度の課題である。
---------------	---

2 学校教育目標	心豊かで、たくましく生き抜く力を身につけた生徒の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善（魅力ある授業づくり、タブレット端末の有効活用）を通して、確かな学力の向上を図る。 ②よりよい人間関係づくりに基づき、自主的な活動や自己決定する場面を設定し、豊かな学校生活づくりを推進する。 ③基本的生活習慣の確立や安全教育の充実により、心身の健全な育成に努める。 ④家庭や地域との連携・協働を強化し、コミュニティ・スクールの推進・充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。 ⑤業務の効率化と時間外勤務時間の削減に努め、働き方改革を推進する。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
●学力の向上	○タブレット利活用力の更なる向上を図るとともに、より効果的な場面での利活用を目指した授業の改善を行う。	○タブレット端末を週に3回以上使用したと回答した生徒が80%以上	・Aドリル、ロイノート利活用の推奨 ・タブレット端末を活用した授業の実施 ・小中連携の授業参観の実施	A	・「タブレット端末を週3回以上使用している」生徒は92.4%、「主体的に授業に参加している」生徒は96.7%に達し、効果的に活用し、積極的に学習する生徒は多い。 ・教師アンケートにおいては、「授業でタブレット端末を継続的に活用している」とする肯定的回答が、第2回では71.0%となり、第1回アンケートから向上するなど、ICT活用の定着が進んでいる。	A	・ICTやAIの活用は、今後も学力向上の重要なポイントになるので、継続して同様の対応を続けてほしい。 ・ICT活用の定着が、学力の向上につながるようにすることが大切である。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合が75%以上	・思考や価値判断を伴う道徳の授業が毎週展開できるよう、学年で協力しながら教材研究にあたる。	A	・「道徳の授業で友だちと意見を出し合い、自分の成長につながっている」生徒は95.6%となった。 ・教師アンケートにおいても、「道徳科の重要性を自覚し、授業実践に取り組んでいる」という肯定的評価は96.8%であった。	A	・成果指標は達成できているが、具体的な取組(思考や価値判断を伴う道徳の授業が毎週展開できるよう、学年で協力しながら教材研究にあたる)の実施状況と成果が気になる。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○安心安全に過ごせる学び合う集団であると回答した生徒の割合が75%以上	・年10回以上のアンケートを実施 ・いじめのちを考える日の毎月実施 ・週毎の生徒指導委員会にて、いじめ事案の経過を確認する。	A	・「学校はいじめのない温かい雰囲気である」生徒は87.9%、「学校で安心して生活・学習できている」生徒は95.4%となった。 ・教師アンケートにおいても、「いじめを把握した際に組織的に対応している」という肯定的評価が100%となっており、校内の組織的対応が定着している。	A	・具体的な取組として挙げられている内容についても、プロセス評価が必要である。	・生徒指導主事 ・教育相談
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・小中9カ年を通した系統的なキャリア学習の展開やキャリアパスポートの効果的な活用を通して、中・長期の展望を持たせる。 ・進路に関する資料の適切な管理や講演会の実施、職場体験、職業講話、先輩に学ぶなどを通し、進路に関する関心を高める。	A	・「先生は自分のよいところを認めてくれている」生徒は94.2%となり、高い水準を示している。 ・実行委員会形式の行事や役割をもたせた活動を通して、生徒が主体的に関わる場面が増えた。 ・「将来の夢や目標をもっている」生徒は78.6%となり、中間評価時より向上が見られた。 ・教師アンケートにおいても、「キャリア教育を意識した指導に取り組んでいる」という肯定的評価が見られ、生徒の自己肯定感や将来への意識の育成につながっていることがうかがえる。	B	・生徒の親が自身の仕事について、生徒にレクチャーすることも大切ではないか。 ・アプローチの方法が難しい取組になると思うが、生徒の将来をテーマにしたコミュニケーションを増やすことが、基本的なプロセスとして大切な点になると思う。	・進路指導主事 ・各学年進路担当
●健康・体づくり	○生徒会活動の活性化を通して、支え合う人間関係づくりを推進	○「仲間に対して思いやりの心で接し、優しい言葉かけをしている」と回答した生徒が90%以上	・生徒会の自主性を高める活動推進(各種行事の実行委員会制、生徒集会のあり方の見直し、校則の見直し等)	A	・「仲間思いやりの心で接し、優しい言葉かけをしている」生徒は95.8%となった。 ・日常的な声かけや生徒会活動、学級での取組を通して、互いに支え合う人間関係が育まれていることがうかがえる。	A	・「生徒会活動の自主性」が評価の対象となっているので、成果指標は客観的な評価になっていないと思う。	・生徒会担当
	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の生徒70%以上 ●学校評価アンケートにて田代スタイル(無言清掃・時間・あいさつ)について肯定的な回答した生徒80%以上 ●「健康に良い食事をしている」と回答した生徒70%以上	・運動やスポーツを安心安全に行える環境づくりを絶えず行う。 ・田代スタイル(無言清掃・時間・あいさつ)の取り組みを、生徒会活動の活性化を通して推進する。 ・給食や家庭科の授業等を通して、望ましい食習慣と食の自己管理の大切さを指導する。また、家庭実践が出来るか、授業の中でアンケートを取り、その結果を次に活かす。	A	・「授業以外で週7時間以上運動している」生徒は75.2%となり、中間評価時と同程度の水準を維持している。 ・「田代スタイル」の3項目を知っている生徒は73.8%であり、一定の理解は見られるものの、さらなる浸透が課題である。 ・「無言清掃の目的を理解し協力している」93.6%、「時間を守って生活している」94.8%、「あいさつができている」93.1%と、生活面に関する項目はいずれも高い水準を示している。 ・「健康に良い食事を心がけている」と回答した生徒は92.9%となり、健康に対する意識が定着している。	A	・具体的な取組として挙げられている内容についても、プロセス評価が必要である。	・部活動担当 ・生徒会担当 ・給食担当 ・家庭科主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「安全に関する資質・能力の育成」	○「登下校において交通ルールやマナーを守っている」と回答した生徒80%以上。「交通安全指導を十分にしている」と回答した職員90%以上。	・交通安全教室の実施(特に1年生) ・PTAと連携して自転車点検や通学路点検を実施する。	B	・「交通ルールやマナーを守っている」と回答した生徒は99.1%、「交通ルールやマナーを意識して指導している」と回答した職員も96.3%と高い水準を維持している。 ・一方で、地域から登下校時の交通マナーに関する指摘が寄せられる場面もあり、アンケートと実際の行動との間に差が見られることから、引き続き継続した指導が必要である。	B	・下校の際の交通ルールを守ることがまだ十分とは言えない。	・安全指導担当
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●時間外在校等時間の上限を遵守する。(上限月45時間以内の職員の前年比10%増) ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数10日以上。	・定時退勤日の設定及び徹底 ・管理職による職員の勤務実態の把握 ・会議・行事等を見直し削減を図る。 ・働き方に関する職員研修を行う。	B	・12月末時点での時間外在校時間が月45時間以内の職員の割合は、9月末時点と同水準であり、前年比8%増である。成果指標の10%増は達成できなかった。 ・アンケート結果では、「帰れるときは早く退勤している」「定時退勤日には定時で退勤できている」と肯定的に回答した職員の割合が中間評価時より増加しており、勤務時間に対する意識の向上が認められた。 ・年次休暇を年間10日以上取得した職員は全体の5割程度にとどまり、成果指標の達成には至らなかった。	B	・多くの業務を効率化を高めて取り組むのは難しいと推察する。 ・校外クラブの幹事等は、指標として難しいでしょうか。部活動削減の出口戦略として必要だと思う。	・管理職
●特別支援教育の充実	○(学校独自重点取組・任意) ・全職員で生徒の特性を共通理解し、特別支援教育に取り組む。	○授業引継ぎファイルを活用し、生徒の特性に配慮した授業実践していると肯定的に回答した職員を70%以上にする。	・職員研修を行うて推進を図る。 ・授業引継ぎファイルに授業で知り得た生徒の様子や特性を記録し、情報共有する。	A	・「特別支援教育に関する学びを生徒支援に生かしている」職員は100%、「授業引継ぎファイルを活用し、生徒の特性に配慮した授業を行っている」職員は83.8%であり、定着してきている。 ・一方で、全教職員による支援の質の均一化に向けて、引き続き情報共有と研修の充実が求められる。	A	・生徒個人の記録は、個人情報として高いレベルの管理が必要であるが、支援を充実させるためには大切な情報である。保護者の同意は必要だが、支援する先生たちで共有していくことを検討してほしい。	・特別支援コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
○小中一貫教育の充実	○教科「日本語」の実践充実	○教科「日本語」の学習に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒が80%以上	・年間授業時数の確実な実施(1年生20h、2・3年生35h) ・特別非常勤講師を招聘した体験活動の充実(茶道、俳句・川柳等)	B	・「学習が生活に役立つ知識や技能の習得につながっている」生徒は89.8%となっている。 ・一方で、学びを実生活と結び付けて捉えることが難しい生徒も見られることから、体験活動の在り方や学習の振り返りを工夫し、理解を深める取組を継続していく必要がある。	B	・教科「日本語」で、田代中の特徴となるようなプログラムを検討してほしい。	・教科「日本語」教育コーディネーター
○コミュニティスクール(学校運営協議会)の機能推進	○協議会の機能推進 ○地域人材の活用、地域貢献・奉仕活動等の推進	○年3回の協議会開催(授業参観含む) ○地域人材の活用、地域貢献・奉仕活動等の実践(年間2回以上)	・本校の教育課題についての情報共有と課題解決のための連携・意見交換の充実を図る。 ・学校評価の活用	B	・第2回協議会では、「通学時の交通マナー」をテーマに協議を行い、地域の視点を運営に生かす機会とした。 ・地域の清掃活動や行事に生徒が参加し、地域貢献の意識向上のためのよい機会となった。 ・「ボランティア活動に関心がある」と肯定的に回答した生徒は52.1%であり、関心の高まりという点では個人差があり、今後も学校運営協議会や地域と連携した取組を継続していく必要がある。	B	・ボランティア活動により関心をもってもらうために、町としては活動者に感謝状を出して、モチベーションを上げてほしい。 ・生徒会の取組として、協議会等へ参画すれば地域と学校がもっと近い存在になる気がする。	・管理職

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全についてはアンケート結果では高い水準が見られたが、登下校時の交通マナーについて地域からの指摘もあることから、今後も関係機関や地域と連携し、実際の行動につながる継続的な安全指導の充実を図る。 ・地域清掃活動等への参加を通して地域貢献への意識の高まりが見られた。一方で、ボランティア活動への関心には個人差もあるため、地域と連携した取組を継続し、生徒の主体的な参加を促していく。 ・働き方改革については、定時退勤日の設定や会議の効率化等により意識の向上が見られたが、時間外在校時間の削減や年次休暇取得の面では課題も残る。今後も業務改善と効率化を進め、働きやすい職場環境づくりを推進する。
----------------	---